

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(MENA・イスラム圏: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MenaOicCountries.html>)

マイライブラリー:0252

(注)本稿は 2012 年 11 月 25 日から 12 月 28 日まで 3 回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2013.1.6

前田 高行

イスラム金融は今後も発展するか？

目次	頁
1. イスラム金融を巡る最近の動き: 対照的な HSBC と StanChart	1
2. イスラムの人口は世界の 16%、金融の占有率はわずか 1%	2
3. イスラム金融の発展要因と阻害要因	3

1. イスラム金融を巡る最近の動き: 対照的な HSBC と StanChart

HSBC(旧称 Hongkong Shanghai Banking Corporation, 香港上海銀行)と Standard Chartered 銀行(略称 SCB 又は StanChart)は世界有数の金融機関であり共にイスラム圏に強い基盤を有しているが、この二行がイスラム金融の取り扱いを巡って対照的な動きを見せている。

HSBC はグループ内に HSBC Amanah と称するイスラム金融専門部門(いわゆる Islamic window)を設けて積極的なイスラム金融商品を手掛けてきた。しかし最近になって同行はグローバルなイスラム金融ビジネスを見直し、バハレーン、UAE、英国などのイスラム金融の取り扱いを停止し、サウジアラビアとマレーシア、そしてインドネシアの3カ国に絞り込むと発表した¹。これに対して中東・アジア地域が稼ぎ頭である StanChart 銀行は UAE 及びバハレーンにおけるイスラム金融ビジネスを拡大すると言う HSBC と全く逆の反応を示している²。

なお地場銀行の対応を見るとアブダビ国民銀行(NBAD, National Bank of Abu Dhabi)やクウェイトのブビヤン銀行(Kuwait Boubyan Bank)は StanChart と同様イスラム金融に力を入れると表明³、ドバイのイスラム専門銀行 Noor Islamic Bank の CEO も事業の拡大を目指す⁴と述べている。

何故このように慎重派の HSBC と積極派の StanChart 及び GCC 地場銀行に分かれるのであろうか。実は次項に述べるとおりイスラム金融市場自体は今後拡大すると言う見方が一般的であり、慎重派も積極派も異論の無いところである。対応が分かれるのはイスラム金融の収益性など将来のビジネス環境に対する評価であり、或いはビジネス分野に対する評価にありそうだ。

但し一方ではイスラムの宗教規範に基づく独特の在り方(例えば金利を認めないなど)がイスラム金融のグローバル化の阻害要因になっていると言う点では慎重派と積極派両者の認識は共通している。そのような制約の中でいかなるビジネスモデルを描くかで両者の違いが現れているようである。イスラム金融市場の規模拡大と言うポジティブな側面と宗教規範に縛られるネガティブな側面に対して慎重派と積極派は戦略が異なると言えよう。

本稿では最近の各種情報を渉猟しイスラム金融の将来について考えてみたい。

2. イスラムの人口は世界の 16%、金融の占有率はわずか 1%

近年イスラム圏各国でイスラム回帰の動きが目立ち、特に MENA 諸国では「アラブの春」に触発されてムスリム同胞団を中心とするイスラム勢力が政治の主導権を握るようになった。これにより、経済面でもイスラム金融が脚光を浴びている。現在イスラム金融の規模は凡そ 1 兆ドルと見られる⁵。全世界のイスラム信者の数は 16 億人で世界人口の 4 分の 1 弱であるが(2010 年末、米国シンクタンク Pew Research 社による)⁶、それに対してイスラム金融の規模は西欧型の在来金融(conventional finance)に比べるとわずか 1%にすぎない⁷。

これらのことからイスラム金融が今後大きく伸びるであろうことについては異論が無く、例えば世界的な金融調査機関であり格付け会社として知られる Standard & Poor's(S&P)社は、イスラム金融が年率 20%以上で成長しており 2015 年には 3 兆ドルになると予測している⁸。GCC の地場銀行やイスラム金融専門銀行はさらに強気の見通しを持っており、アブダビ・ナショナル銀行はイスラム金融部門が今後 8 年間で 3 倍に拡大すると見込み⁹、またクウェイトの Noor Islamic Bank の CEO Hussain Al Qemzi は世界のイスラム金融は今後 5 年間で 4 兆ドルを超えると述べている¹⁰。同じくクウェイトのイスラム金融専門銀行 Boubyan Bank によれば、今年 1-9 月のクウェイト国内のイスラム金融の信用規模は 13.2%増加し 111 億 KD(393 億ドル)であり、これは在来型銀行(conventional bank)の伸び率 5.6%を大きく上回っている¹¹。

GCC の金融業を俯瞰すると、石油・天然ガス資源が乏しいバハレーンが海運流通業やホテル観光産業などと共に金融業に力を入れており、オフショア・バンキングの長い歴史を誇って来た。同国は 1970 年代の第一次オイルブームの追い風を受けて近隣産油国のオイルマネーを集め、内戦で機能麻痺に陥ったバイルートに代わり中東の金融センターにのし上がった。その後、ドバイが近代的なインフラを整備しバハレーンの外国銀行を惹きつけ湾岸の新興金融センターになった。このためバハレーンはイスラム金融に活路を求め、東南アジアのマレーシアと並ぶ世界の二大イスラム金融センターになったのである。

このような中で国策としてイスラム金融の育成を目指しているのがカタールである。もともと GCC6 力国の中でカタールは金融業では最後発国であるが、同国政府はかなり強引な手法でイスラム金融の保護育成に乗り出した。即ち昨年 2 月、カタール中央銀行は国内の conventional bank(在来型銀行)に対してイスラム金融窓口(Islamic window)の閉鎖を命じたのである¹²。湾岸諸国では一般にイスラム金融はイスラム金融専門銀行(Islamic bank)と共に在来型銀行でも取り扱いが認められて

おり、そこでは Islamic window と呼ばれるイスラム金融を取り扱う独立した窓口が設けられている。イスラム金融はシャリア(イスラム法)に従うことが義務付けられ通常の西欧流の資金運用方法と大きく異なる。Islamic window はイスラム金融を好む顧客に対するサービスであると同時に銀行内のファイアーウォール(隔離壁)の役割も果たしているのである。

イスラム金融を専門銀行にしか扱わせない国としてはアフガニスタンのような例が無い訳ではないが、西欧流の近代的な経済・金融システムの国では在来型銀行に Islamic window を認めるのが普通である。GCC 諸国の中で最も西欧志向が強いカタールが Islamic window を禁止したのは、国内産業の育成に躍起になっている政府が地場企業のイスラム専門銀行を優遇するために打った強引な手法であった。経済の実態を無視したこの奇策は結局失敗に終わろうとしているが¹³、カタール国内のイスラム金融に対する需要と供給はなお底堅いものがあると言える。。

3. イスラム金融の発展要因と阻害要因

現代のイスラム金融には正と負の要因がある。正の要因即ち将来の発展を期待させる要因としてはイスラム・マネーの量的拡大とイスラム諸国の経済発展をあげることができる。イスラム諸国の中にはサウジアラビア、クウェイト、UAE などの大産油国があり、オイル・マネーがイスラム金融に流れ込むルートが生まれている。そしてマレーシア、インドネシアなど東南アジアのイスラム諸国は近年の急速な経済発展により資金需要が旺盛であり通常の西欧型金融(Conventional finance)に加えイスラム金融(Islamic finance)に対する根強い需要がある。さらに昨年の「アラブの春」によりエジプトなど各国にイスラム系政権が誕生するとイスラム金融が更に広まるとの見方がある。

一方イスラム金融の負の要因即ち発展を阻害する要因も少なくない。最も広く知られているのがコーランが利子を禁止していることである。豚肉・賭博など各種の禁忌(ハラーム)もある。イスラム教の教祖ムハンマドはアラーの啓示を受ける前は隊商の交易商人であった。そのためコーランあるいは預言者の言行録スナには経済活動に触れたものが少なくない。それらはシャリア(イスラム法)として今も社会の規範となっている。

ムハンマドの生まれた7世紀は後の重商主義、資本主義へと連なる世界の通商時代の黎明期である。同じ一神教でも紀元前の牧畜農耕時代に生まれたユダヤ教やキリスト教とは時代が異なることに留意すべきであろう。イスラムは比較的歴史が新しいため7世紀の規範がそのまま現代の社会経済活動に色濃く反映している。現代世界経済の事実上の標準(デファクト・スタンダード)である西欧流資本主義とイスラム経済の折り合いが良くないのはある意味で当然かもしれない。

「アラブの春」はイスラム金融にとってプラス要因だと上述したが、実はこれは同時にマイナス要因でもある。何故なら「アラブの春」により厳格なイスラム主義(サラフィー主義)思想が広まると、経済行為をコーランやスナで厳格に評価しようとする動き、即ちシャリア法適合(シャリア・コンプライアンス)が強まる傾向がある。これは二つの側面で経済の動きを制約する。一つは厳格なシャリア法の適用が自由な経済活動を最も重視する西欧型経済金融制度と対立することであり、もう一つの問題はシャリア法の解釈がイスラム各国で異なる結果、イスラム金融制度の標準化が難しくなる

ことである。

実際にこのような事態が多発しており、国家を跨る大型ファイナンス組成などで支障を生じている。世界のイスラム金融の二大拠点は中東のバハレーンと東南アジアのマレーシアである。中東はサラフィストの影響が強まりシャリア・コンプライアンスが厳格に解釈される傾向にある一方、東南アジアは柔軟な解釈でイスラム・マネーを取り込もうとしている。バハレーンとマレーシアにあるそれぞれのイスラム金融国際機関は制度の統一を模索しているが、その作業は遅々として進んでいないのが実情である。

西欧の金融危機で行き場を失った大量のオイル・マネー。その一方で統一化が遅れ国際的な大型案件を組成できないイスラム金融機関。両者のすれ違いは当面解消しそうにない。その結果生まれた傾向が「イスラム金融の国内化」であろう。即ちシャリア法の国内解釈を統一しイスラム金融を育成しようとする国にイスラム投資マネーが集まると言う寸法である。こうして当面イスラム金融は各国の国内ベースで成長するのであろう。

このように見れば本稿冒頭でHSBCとStanChartが表面上対照的な動きを示す一方、イスラム金融は今後も拡大すると言う見解を共有していることの意味が理解できる。つまり両銀行を含めイスラム銀行はイスラム金融制度が安定し発展が見込まれる国に対しては活動を強化する一方、制度が不安定でシャリア法解釈の統一に熱心でない国に対しては支店を閉鎖するなど活動を縮小しているのである。現在はイスラム金融機関が国家を選択している時代だと言えよう。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

¹ Gulf Times on 2012/10/5, 'HSBC scales back Islamic business in global review'
http://www.gulf-times.com/site/topics/article.asp?cu_no=2&item_no=535277&version=1&template_id=48&parent_id=28

² Gulf Times on 2012/10/31, 'StanChart eyes UAE, Bahrain for Islamic banking growth'
http://www.gulf-times.com/site/topics/article.asp?cu_no=2&item_no=540576&version=1&template_id=48&parent_id=28

³ Gulf Times on 2012/10/19, 'Gulf Islamic banks ready to step in as HSBC pulls back',
http://www.gulf-times.com/site/topics/article.asp?cu_no=2&item_no=538247&version=1&template_id=48&parent_id=28及び

Kuwait Times on 2012/11/22, 'Kuwait's Boubyan Bank sees Islamic banking boom – Boubyan to focus on home market'
<http://news.kuwaittimes.net/2012/11/21/kuwaits-boubyan-bank-sees-islamic-banking-boom-b>

[oubyan-to-focus-on-home-market/](#)

⁴ Khaleej Times on 2012/9/22, 'Islamic finance sector seen to reach \$2 trillion by 2015',
http://www.khaleejtimes.com/biz/inside.asp?xfile=/data/uaebusiness/2012/September/uaebusiness_September222.xml§ion=uaebusiness

⁵ Gulf Daily News on 2012/11/13, 'Islamic finance forum lined up'
<http://www.gulf-daily-news.com/NewsDetails.aspx?storyid=341616>

⁶ Pew Research Center ホームページより。
<http://features.pewforum.org/muslim-population/?sort=Percent2010>

⁷ Gulf Business on June 2012, 'Another false start?' (P34)

⁸ Gulf Times on 2012/10/31, 'StanChart eyes UAE, Bahrain for Islamic banking growth'
http://www.gulf-times.com/site/topics/article.asp?cu_no=2&item_no=540576&version=1&template_id=48&parent_id=28

⁹ Gulf Times on 2012/10/19, 'Gulf Islamic banks ready to step in as HSBC pulls back'
http://www.gulf-times.com/site/topics/article.asp?cu_no=2&item_no=538247&version=1&template_id=48&parent_id=28

¹⁰ Khaleej Times on 2012/9/22, 'Islamic finance sector seen to reach \$2 trillion by 2015'
http://www.khaleejtimes.com/biz/inside.asp?xfile=/data/uaebusiness/2012/September/uaebusiness_September222.xml§ion=uaebusiness

¹¹ Kuwait Times on 2012/11/22, 'Kuwait's Boubyan Bank sees Islamic banking boom – Boubyan to focus on home market'
<http://news.kuwaittimes.net/2012/11/21/kuwaits-boubyan-bank-sees-islamic-banking-boom-boubyan-to-focus-on-home-market/>

¹² Arab News on 2011/2/7, 'Qatar move surprises local banks'
<http://arabnews.com/economy/islamicfinance/article252662.ece>

¹³ Gulf Times on 2012/5/3, 'Qatar ban on Islamic windows of banks fetches no windfall',
http://www.gulf-times.com/site/topics/article.asp?cu_no=2&item_no=503043&version=1&template_id=48&parent_id=28